

# 施策評価シート

幹事部局

土木部

<b>施策の名称</b>	Ⅲ-4-(1) 高速道路等の整備促進
<b>施策の目的</b>	高速道路を整備して全国的な幹線ネットワークと接続するなど、県内外の広域的な移動時間を短縮することで、全県的な活力と経済発展につなげます。
<b>施策の現状 に対する評価</b>	<p>(高速道路等の整備促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島根県内の高速道路の供用率は78%であり、全国の88%の供用率に比べると、未だ低い状況にある。特に山陰道の供用率は67%にとどまっており、令和2年度に「益田西道路」が新規事業化され、県内の事業中区間は7区間となったものの、出雲市以西は開通区間と未開通区間が交互に存在しており、事業未着手の「小浜～山口県境間」も含め、ミッシングリンクとなっている。</li> <li>・ 開通区間の沿線地域では、企業進出や観光客数の増加など、地域経済への波及効果が現れているものの、ミッシングリンクの存在により効果が限定的となっており、県全域に効果を広げていくためにも早期のミッシングリンク解消が課題である。</li> <li>・ 県内の高速道路の開通区間の約8割が暫定2車線であり、対面通行による安全性、時間信頼性の低下、大雪時の通行止めの長期化等の課題を抱えている。</li> </ul> <p>(高速道路の利活用促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島根県東部及び西部利用促進協議会と連携して利用促進活動を行い、県東部の高速道路利用台数は目標を達成したが、浜田自動車道の交通量の減少が課題である。</li> <li>・ 県が連携し、NEXCO西日本が実施する浜田自動車道を含めた高速道路の利用促進を図る企画割引を実施し、その期間中の1日当たりの利用者は年々増加している。</li> </ul>
<b>今後の取組 の方向性</b>	<p>(高速道路等の整備促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業振興や観光振興の基盤となる山陰道の早期整備は島根創生の実現に必要不可欠であり、全国的な物流ネットワークを維持する代替路としても重要な社会基盤であることから、重点要望等を通じて山陰道の早期整備を国に要望する。</li> <li>・ 早期整備に不可欠な用地取得については県の支援体制を継続するとともに、埋蔵文化財調査を効率的に進められるよう関係機関との調整を行う。</li> <li>・ 県西部～山口県北部に至る県境を越えた周遊活動を促す取り組みを沿線の自治体等と連携して行い、地域の活性化を図るとともに、山口県と連携した取り組みなどにより、山陰道の早期整備、なかでも「小浜～山口県境間」の早期事業化を要望する。</li> <li>・ 高速道路の4車線化については、「高速道路における安全・安心基本計画」に位置づけられた県内優先整備区間5区間の早期事業化と、当面の緊急対策としてワイヤロープの設置推進を国に要望する。</li> </ul> <p>(高速道路の利活用促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島根ふるさとフェアへの参加、山陰道の開通情報等のPRIにより、高速道路を利用した県内への誘客を図る。</li> <li>・ 山陰道の開通前から石見部と出雲部・山口県北部との東西交通流動を促す取組を沿線市町と連携して行い、県内高速道路の利用促進を図る。</li> <li>・ NEXCO西日本、県、沿線自治体等で連携し、高速料金の企画割引の利用促進を図る。</li> </ul>



### 事務事業の一覧

施策の名称	Ⅲ-4-(1) 高速道路等の整備促進
-------	--------------------

	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	山陰自動車道の建設促進事務	・道路利用者	・早期に山陰自動車道を全線開通する	47,310	56,525	高速道路推進課
2	高速道路利用促進事務	・高速道路利用者	・利用促進策を実施し、高速道路の利用台数の増加と交流の拡大を図る	3,339	2,690	高速道路推進課
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

高速道路推進課

事務事業の名称		山陰自動車道の建設促進事務			
目的	誰(何)を対象として	・道路利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	・早期に山陰自動車道を全線開通する		47,310	56,525
今年度の取組内容	・山陰自動車道用地業務受託：高速道路事業用地の取得を促進するため、国土交通省から用地取得業務を受託 ・関連周辺地域整備事業助成：市町が高速道路建設に併せ施行する必要がある道路・河川の改修費に対して助成 ・高規格幹線道路関連調査：山陰自動車道の整備に関連する道路計画調査等を実施 ・山陰道沿線活性化プロジェクト：開通前の段階から、県境を越えた周遊を促す取組を行い、山陰道の早期整備の必要性を訴える ・その他(関係機関連絡調整、整備促進要望活動)				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	新たに山陰道沿線活性化プロジェクトを立ち上げ、山陰道の開通効果をより大きなものとするために、開通前の段階から県西部～山口県北部に至る県境を越えた周遊活動を促す具体的な取組を沿線市町等と連携して行い、山陰道の早期整備の必要性を訴えていく				
1	上位の施策	Ⅲ-4-(1) 高速道路等の整備促進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	高速道路供用率(山陰道の供用延長÷山陰道の路線延長)【当該年度3月時点】	目標値		67.0	67.0	67.0	74.0	78.0	%	累計値
		実績値	67.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・島根県内の高速道路の供用率は78%(全国88%、中国地方88%)、山陰道の島根県内の供用率は67%。 ・出雲湖陵道路、湖陵多伎道路…令和6年度開通予定 ・大田静間道路、静間仁摩道路…令和5年度開通予定 ・三隅益田道路…令和7年度開通予定 ・福光浅利道路…用地進捗率 約47%、事業進捗率 約7% ・益田西道路…令和2年度新規事業化 ・小浜～田万川間…事業化に向けた計画段階評価の手続き中 ・浅利～江津間は国道9号江津バイパスと県道浅利渡津線を当面活用								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・R元年12月に県内の事業中5区間について開通見通しが公表された(R7年度末には山陰道の供用率は86%となる) ・「益田～萩間」の優先区間である「須子～田万川間」のうち、「須子～小浜間」が「益田西道路」としてR2年度新規事業化 ・残る「小浜～田万川間(約5km)」についても、3つの対策案が示され、住民アンケートを実施(R2.3～5月) ・福光浅利道路の用地取得の促進を図るため、R元年度から浜田県土整備事務所に必要人員を配置して国を支援した結果、用地取得率は47%(R2.3月現在)となった ・埋蔵文化財の試掘調査は、259箇所のうち247箇所が完了、残り12箇所 ・山陰道に関連した市町の負担事業：全29件中21件完了、残り8件
課題	① 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)に支障となっている点	・山陰道整備予算の所要額確保 ・「益田～萩間」は未着手区間が多く、事業化へのスケジュールが見通せない ・開通見通しが示されていない福光浅利道路の用地取得と埋蔵文化財調査の円滑な進捗 ・山陰道の事業推進にあわせて実施する必要のある市町が行う関連事業の円滑な進捗
課題分析	② 上記①(課題)が発生している原因	・高速道路整備予算が含まれる改築費は減少傾向 ・「益田～萩間」は、県境をまたぎ現況交通量も少ないため、事業化の判断基準となる費用便益比の便益が小さい ・相続等により用地取得に期間を要するケースがあるほか、埋蔵文化財調査は用地取得後に実施することとなるため、埋蔵文化財調査を効率よく行うためには、用地の円滑な取得に加え、用地取得時期を含めた調査工程等の調整が必要 ・山陰道の円滑な事業進捗のためには、本線工事の進捗、タイミングに合わせた市町関連事業の予算確保、事業実施が必要
方向性	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・新たに山陰道沿線活性化プロジェクトを立ち上げ、開通前の段階から県西部～山口県北部に至る県境を越えた周遊活動を促す取組を山陰道沿線の自治体等と連携して行い、地域の活性化を図るとともに山陰道の早期整備の必要性を訴え、山陰道整備の予算確保に繋げる ・「益田～萩間」は、県境をまたいでいることから、山口県との連携を視野に早期整備の必要性を訴えていく ・国、県、市で行う調整会議をより綿密に行い、用地取得と埋蔵文化財調査を計画的に進める ・財政規模の小さい市では、短期間に集中した事業の実施は困難であり、財政負担を軽減するための助成事業を継続して実施する

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

高速道路推進課

事務事業の名称		高速道路利用促進事務			
目的	誰(何)を対象として	・高速道路利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	・利用促進策を実施し、高速道路の利用台数の増加と交流の拡大を図る		3,339	2,690
			うち一般財源 (千円)	3,339	2,690
今年度の取組内容	・高速道路の整備状況や道の駅情報、沿線市町の観光情報等について、情報発信やPRを行い、高速道路の利用台数の増加と交流の拡大を図る ・高速道路の利用を促進するためには、沿線自治体や経済界と連携した取り組みが不可欠であり、島根県東部および島根県西部の高速道路利用促進協議会に対して運営費の一部を負担し、連携して利用促進活動を行う				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・高速道路建設促進事務の取り組みとして、新たに山陰道沿線活性化プロジェクトを立ち上げ、高速道路の利用促進にも繋がる取り組みを実施する				
1	上位の施策	Ⅲ-4-(1) 高速道路等の整備促進	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	高速道路(山陰自動車道)の利用台数【当該年度4月～3月】	目標値		12,500.0	12,500.0	12,500.0	12,500.0	13,500.0	台	単年度値
		実績値	12,700.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	高速道路(浜田自動車道)の利用台数【当該年度4月～3月】	目標値		4,000.0	4,000.0	4,000.0	4,000.0	4,000.0	台	単年度値
		実績値	3,770.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・山陰自動車道の交通量は12,700台/日であり、昨年度と比べて微増(GWの10連休が平均を引き上げたものと推測) ・浜田自動車道の交通量は3,770台/日にとどまり、特に利用台数の落ち込みが大きかったH26年のETC割引の見直し以降、回復の兆しがみられない(例年に比べ3月の落ち込みが大きく、コロナウィルスの影響と推測) ・山陰道における事業中区間の早期完成、未事業化区間の早期事業化のためには、特に県西部における既存の高速道路の一層の利用促進を迫られている ・令和2年度は新型コロナウィルスの影響で、企画割引の内容や実施期間は未定(6月時点)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・高速道路活用マップの作成、ふるさとフェアにおけるPR活動等により、県東部の高速道路利用台数は目標を達成した ・県が連携し、NEXCO西日本が実施する浜田自動車道を含めた高速道路の利用促進を図る企画割引が一定の評価を得ており、年度によって実施期間が異なるものの利用者(日当たり)は年々増加している
課題分析	① 課題	・浜田自動車道の交通量は、平成23年度から年々減少傾向にあり、令和元年度は3,770台/日 ・NEXCO西日本の企画割引の利用者数(日当たり)は増加傾向だが、浜田自動車道の交通量は依然減少傾向 ・浜田自動車道の交通量の減少は、県西部地域の観光関連産業を中心に影響を及ぼしている
	② 原因	・ETC割引の縮小による影響を引きずっているものと考えられる ・尾道松江線の開通により、時間短縮効果と料金的な割安感から県東部地域の観光客が増加する一方、県西部地域は減少していると考えられる ・県西部は南北の浜田自動車道は開通しているものの東西の山陰道の整備率が低く、高速道路がネットワークとして十分に機能していない ・高速料金の有料・無料(尾道松江線)の東西不公平感が地域にはある
	③ 方向性	・島根ふるさとフェアへの参加、山陰道の開通情報等のPRにより、高速道路を利用した県内への誘客を図る ・山陰道の開通前から石見部と出雲部・山口県北部との東西交通流動を促す取組を沿線市町と連携して行う(山陰道沿線活性化プロジェクト) ・山陰道の早期整備を図り、浜田自動車道、松江自動車道、中国自動車道と一体となった高速道路ネットワークを構築し、県内高速道路の利用促進を図る ・NEXCO西日本、県、沿線自治体等で連携し、高速料金の企画割引の利用促進を図る